

“ 戦略ロードマッピング ”

ワークショップのご案内

- 先の見えない時代の未来価値創造の実践 -

日時：2006年2月7日(火)~9日(木)

会場：北陸先端科学技術大学院大学 東京八重洲キャンパス

<http://www.jaist.ac.jp/ks/mot/>

主催：GATIC-Japan (Global Advanced Technologies Innovation Consortium)

将来の発展方向が不透明な時代、社会や技術が激変する中で、どのようにして時代の潮流を読み取り、未来展望(Future Landscape)を描くか、どのようにして自社の独創的な挑戦目標を創設し、かつこれに自信を持って機動的に挑戦するか、この具体的方法論として欧米で急速に導入され、日本でも注目されている「戦略ロードマッピング」の理論と実践のワークショップを開催します。

今回の講師陣は、テクノロジー・ロードマッピングの世界的権威である、ロバート・ファール博士(ケンブリッジ大学)を招聘し、技術経営(MOT)に関するGATICとも連携し、日本の専門家・実務家も多数加わり、豊富な事例を取り入れより充実したプログラムとなっています。

GATICは国際連携共同研究組織で、スイス連邦工科大学(チルキー教授)、米国ノースウエスタン大学ケログスクール(ラドナー教授)および日本は北陸先端科学技術大学院大学が中核となって、発足した国際産学連携共同研究組織で、欧米日で国際会議を開催、日本では2003年と2004年に東京で国際会議を開催し、戦略ロードマッピングやサービスサイエンスをメインテーマに次世代MOTの振興をめざして活発に活動しています。



今回の戦略ロードマッピング・ワークショップの特徴は、ロードマッピングについての知識や経験の少ない初心者向けの導入コース(A)と、これに続く、既に経験があり実践上の課題を抱えた実務家向けの応用コース(B)を用意し、“クリニック”セッションや日本における実践的課題に対する“総合討議”セッションを設け、グループワークを多く取り入れたインタラクティブな運営です。

募集人数は各コースとも30名とします。なお、人数を超える応募があった場合は、お断りさせて頂く場合もございますので、お早めにお申込下さい。

なお、プログラムの内容等は変更する場合がありますので予めご了承下さい。これらの変更は逐次ウェブアドレス：

<http://www.jaist.ac.jp/ks/mot/index.html>の新着情報欄に掲載し、ますのでご確認ください。



今回ご参加の皆様方には、ケンブリッジ大学が開発したガイドブック“T-Plan Technology Road Mapping, Planning your Route to Success”の翻訳(暫定版:非売品):“すぐできる”実践「戦略ロードマッピング - 成功への“近道”をプランニングする -」(亀岡秋男訳)を進呈します。

平成18年1月11日

GATIC-Japan 代表：亀岡秋男

(北陸先端科学技術大学院大学 理事・副学長)

GATIC-Japan
Global Advanced Technologies
Innovation Consortium-Japan

 UNIVERSITY OF
CAMBRIDGE

JAIST
JAPAN
ADVANCED INSTITUTE OF
SCIENCE AND TECHNOLOGY
1990

“ 戦略ロードマッピング ” ワークショップの概要

WHY: 戦略ロードマップ/マッピング が何故、今必要なのか？

将来が不透明で先が見ない、しかも環境変化が激しく、時代の流れを先読みし、柔軟でダイナミックに対応が不可欠になり、その具体的な方法論として、先端的な高度な戦略ロードマップ/マッピング法が注目されている。その目的は技術予測(第1世代)から戦略計画(第2世代)に移り、最近では、ダイナミック・マネジメント(第3世代)へと発展し、方法論的にも次第に高度になっています。

日本においても、ロードマッピングは技術経営(MOT)の重要なマネジメントツールとして認識され、経済産業省・NEDOの「技術戦略マップ」のウェブ公開を契機に、最近急速に関心を呼んでいます。近年の戦略ロードマップは多層構造を有し、市場、サービス、製品、技術、研究開発、コア・コンピタンスなどの各層のマイルストーン目標設定と相互の関係付け、および発展プロセスのシナリオ化に特長があり、方法論的にも進歩しています。自社の技術力を活用し、効果的・効率的に商品化し、経営戦略と技術戦略とを一体化させるトータルビジネスプランニングとダイナミックなイノベーション・マネジメントに役立ちます。

これは欧米企業で研究・技術開発や商品(サービス、プロセス、システム)開発を市場ニーズに合わせ、かつ企業目標と連結し経営するために幅広く利用されています。半導体ロードマップや自動車技術ロードマップなどの産業レベルのものに限らず、企業レベルでも(モトローラ、IBM、シーメンス、フィリップス、ルーセントテクノロジー、プリティッシュ・ペトロリアムなど)多くの欧米企業で活用されています。また、最近では、アジア諸国でも急速に導入が始まっています。

日本の大学や企業の優れた技術を育み活かし国際産業競争力を維持獲得するには、技術経営(MOT)の基幹的方法論として、国レベル、産業界レベル、企業レベルでプラットフォームを整備し、高度の能力を持ったロードマップパーを育成し、イノベーション・マネジメントに有効活用することによって、円滑な産官学連携による技術移転、企業間・企業内連携、さらには国際連携をも促進することができます。戦略ロードマッピングはMOTの有力な方法として期待されます。

WHAT & HOW: 方法論と実践事例の学習と実践的演習およびクリニック相談

このT-Planロードマッピングは2004年から始め、今回は第3回目です。ロードマッピングの基本的な考え方や方法論を学び、各自が実践できるように演習を行い、実践方法を体得します。それは、開発されたロードマップ自体よりもロードマップを作るプロセス、つまりロードマップを自ら作り活用する能力開発の方がより重要だからです。ロードマップを読み取り変化部分を補正し、さらに自らの部分を独自に創出追加し、自社のものに仕上げるロードマッピング能力が不可欠です。

具体的には、ケンブリッジ大学で開発されたガイドライン「T-Plan」を用いて、実践的なアプローチ法を紹介します。一つ一つのステップを詳細に議論し理解を深めた上で、参加者は5-6人のグループに分かれて実際にロードマップ作成のグループ演習を行います。たとえば“将来の自転車”といった馴染みやすいテーマで行いグループ発表し、その体験を共有しながらどのように実践プロセスに応用するかについて具体的に考え体得していきます。これらの進行には、主任講師の他にグループごとにファシリテーターが付きます。

今回は、2日間のシナリオプランニング法と戦略プランニング/意思決定法を加えた講義と演習(コースA)に加えて、3日目には、“クリニック”セッションを設けて、既に実践経験のある実務家を対象に個別に抱えている実践上の課題を診断し解決するコンサルティングの公開指導(コースB)を行います。これには、特定企業や産業界の実例テーマ取り上げ、実践担当者を交えて討論し研究・交流を深めます。さらに、NEDO委託調査研究プロジェクトの専門委員、作業部会メンバーの参加も得て、日本におけるロードマッピングのあり方や推進方法についての総合討論を行います。

WHO: 国際的権威フェール博士、他大学教授・産業/企業の実務家・政府関係の政策家

主な講師陣・参加協力(予定)者は、

ロバート・フェール博士(ケンブリッジ大学)	亀岡秋男(北陸先端科学技術大学院大学教授)
難波正憲(立命館アジア太平洋大学教授)	香月祥太郎(立命館大学教授)
山野辺正人(キヤノン株式会社 上席部長)	阿部仁志(沖電気工業株式会社研究主席部長)
小粥幹夫(古河電工株式会社 技師長)	森 晋(ニコン株式会社、開発部長)
李 萌 博士(上海交通大学副教授)	安永裕幸(経済産業省研究開発課長)
内平直志(株式会社東芝システム技術ラボラトリ室長) 等、	

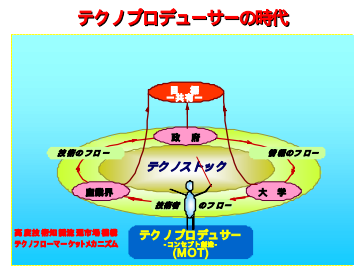
ただし都合によりやむをえず変更することもありますので予めご了承ください。

WHOM: ご参加者いただきたい方

新しいサービスや製品の戦略目標を見つけイノベーションを起すイノベーター（テクノプロデューサー）を志す人、すでにその任務を与えられている下記の職務に就いている方、既に口

企業経営者、経営戦略プランナー、技術経営戦略スタッフ、研究・技術開発マネジャー、製品企画・マーケティングマネジャー、技術経営(MOT)コンサルタント、テクノプロデューサー、科学/産業技術政策立案推進者、産学連携コーディネーターなど

ードマッピングの経験があるが何か課題を持っている方、是非多数ご参加ください。



WHEN & WHERE: 何時どこで行うのか、参加費は？

日時：平成 18 年 2 月 7 日(火)～ 9 日(木)

場所：北陸先端科学技術大学院大学 東京八重洲キャンパス
(JR東京駅八重洲口から 1 分、大丸ビル 9 F)

全体スケジュール

コース	コース A B		
	コース A		コース B
日時	2 月 7 日(火)	2 月 9 日(水)	2 月 9 日(木)
時間	9:00-9:20	受付	受付
	9:20-10:50	レクチャー(1)	グループワーク(1)
	11:00-12:30	レクチャー(2)	グループワーク(1)
	12:30-13:30	ランチ	ランチ
	13:30-15:00	レクチャー(3)	グループ発表(1)
	15:00-15:20	コーヒー・ブレイク	コーヒー・ブレイク
	15:20-16:50	レクチャー(4)	グループ発表(2)
	17:00-18:00	質疑・討論	質疑・討論
参加費	6 万円 (A)		3 万円 (B)
	8 万円 (A B)		

注 1：ケース(1)および(2)は、(社)科学技術と経済の会(JATES)等の協力を得て具体的な企業の事例を取り上げる予定です。

実践状況(風景)：これまで 2003 年 1 月と 2004 年 2 月にワークショップを実施し今回は 3 回目です、これらのワークショップ風景と講義内容を示します。

